

大森みかよ、能登真一（編）

ポケット版 OT 臨床ハンドブック 第2版

麦井 直 樹

（金沢大学附属病院，作業療法士）



この書は、ジェネラリストの要素が必要とされる OT の臨床で役立つ知識が凝縮された 1 冊である。持ち運びやすいコンパクトなポケット版は第 1 版から受け継がれている。第 1 版は、著者の多くを占める聖マリアンナ医科大学病院の OT の生きた知識がわかりやすくまとめられていた。第 2 版はリスク管理について、1 つの項目として作成されていることが特徴の 1 つである。われわれ OT が高頻度にかかわる循環器疾患、糖尿病、腎不全について、わかりやすく解説されている。また整形外科疾患や中枢神経系疾患等、主要な疾患以外にも内部障害やがん等、18 疾患（群）と自助具、また作業療法が処方されるさまざまな疾患の解説と OT に必要な評価、そして治療について丁寧にまとめられている。

私は 30 年以上大学附属病院に勤務しているが、大学附属病院では、実に多様な疾患に作業療法が処方される。処方される患者は初めて疾患について診断される前後であり、発症または受傷し、リハ医療を初めて経験する患者が多い。したがって対象患者自身もその疾患や障害を初めて経験するわ

けである。担当する OT は、患者にわかりやすくリハ治療の方向性を示すことが要求される。OT の知識は、患者とのコミュニケーションをつなぐ大切な道具である。患者から信頼を得るためにも、学び（疾患や作業療法技術の更新）は、OT を辞める日まで継続する必要がある。この書には、実践を知る OT の知見と日々の思考過程が描写されている印象をもつ。巻頭で編者は初学者向けにまとめたハンドブックということ述べてはいるが、若手から中堅まで、活用の幅は広く感じる。さらには、これから実習に向かう学生にも手にしてほしい 1 冊である。

各項目には、作業療法がよく処方される疾患について、「情報収集の前に」、「評価・アプローチに取り組む前に」の 2 つの項目で解説されている。そのうえで作業療法に必要な評価、治療について、エビデンスと実践が、わかりやすい写真、図・表をふんだんに使ってまとめられている。われわれ医療従事者である OT が必要とする専門知識が詰まっている。

編者は本書を活用する意義を序文で示している。OT は、回復期、維持期においては特に「生活モデル」にシフトした働きかけが多く

なるが、急性期は、「医学モデル」の視点が重要である。しかしながら回復期、維持期においても、「医学モデル」の視点を理解したうえで「生活モデル」にシフトすることが、医療従事者である OT には大切である。逆の目線からいうと、「医学モデル」の視点を理解していない OT は、回復期、維持期（施設や在宅等）で患者・利用者、他職種に必要とされるのか。ぜひ、「医学モデル」の視点を理解してほしい。

近年ますます、急性期、回復期、維持期と、どのフェーズにおいても多職種でのカンファレンスが重要視されている。そのような場では、医療従事者である OT の専門性を大いに発揮して、患者・利用者の社会生活、家庭生活における自立支援を支えていただきたい。すなわち OT ならば、いま一度「医学モデル」を理解し、活躍していくことを願う。そのために、きっとこの書は役立つ 1 冊となるであろう。

B6 変 528 頁 4,800 円＋税
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357